

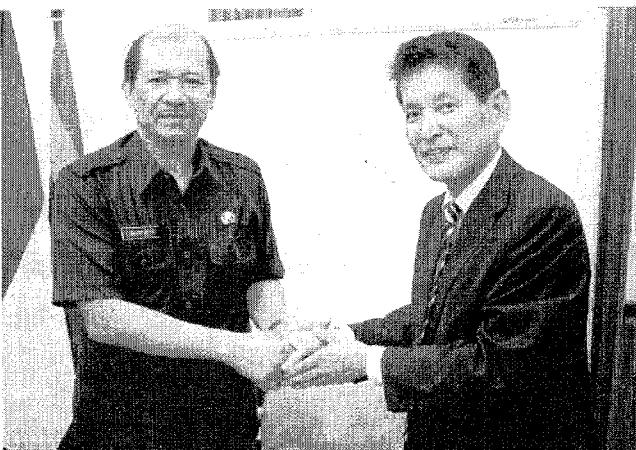
ごみ処理で協力深める



インドネシア・バンドン市で開かれたごみ問題を
話し合つセミナー=岡山市提供

インドネシア・バンドン市を訪問

バンドン市幹部と握手する山田次長=岡山市提供



岡山市環境局職員ら

ごみ問題に悩むインドネシ

アとの協力関係を深めよう
と、岡山市環境局の山田耕市
次長ら3人が6月25日から9
日間、インドネシア・バンド
ン市などを訪問した。バンド
ン市から大規模なごみ焼却場
建設計画に協力を求められ、
山田次長も「技術・運営ノウ
ハウを提供したい」と意気込
む。秋には同国担当者を岡

山市に招く予定だ。

訪問は、岡山大廃棄物マネ
ジメント研究センター(北区)
がアジア太平洋でのごみ減量
を目標して取り組む「岡大発
Xプロジェクト」の一環として
実現。山田次長は同セン
ターの藤原健史教授と、現地
のごみの最終処分場などを視
察、同国の研究者や行政担当
者らと意見交換をした。

人口約240万人のバンド

ン市は、ごみを燃やさずに最
終処分場に埋め立ててきた。
だが経済成長とともにそれで
は間に合わなくなり、1日2
800㌧のごみを燃やす焼却
場建設を計画した。岡山市の
3焼却場の1日の処分量97
0㌧の3倍近い巨大な焼却施
設だ。

意見交換では、山田次長が
岡山市のゴミ処理施設の概要
や運営方法を紹介。生ごみが
多ければ焼却費用が違つく
ることなどを説明した。イン
ドネシア側からは「ダイオキ
シン対策はどうなっているの
か」などの質問が出されたと
いう。

バンドン市はごみの2割
は、廃棄物の削減(リデュ
ス)、再使用(リユース)、
再生利用(リサイクル)と
いう「3R」で減らし、残り
を焼却する計画という。山田
次長はバンドン市側からそ
のための継続的な技術支援を
要請された。

山田次長は「高度成長と
ともにごみが増えた昭和30年代
の日本によく似ていると感じ
た。初めての焼却炉の導入で、
性能をどう確保するかなど課
題に直面している。可能な限
り助けたい」と話している。

政令指定都市 岡山

市長公室 企画課 市民課 市民課課長室



市民のひろば

おかやま

岡山市役所代表電話番号 086-803-1000

※各区役所へも代表電話からおつなぎします。

岡山市ホームページ <http://www.city.okayama.jp/>

携帯ホームページ <http://mobile.city.okayama.jp/>

No.1307



2011
8
August

環境について考える機会です

第2回 集まれ！市民の エコライフ&テクノロジー

岡山大学農業物マネジメント研究センター 086-251-8911

岡山市エコ技術研究会事務局 086-944-7705

問い合わせ

◆ 岡山県や他府県の環境団体が知恵を絞り、エコライフ・テクノロジーについてさまざまな展示を行います。当日は、内藤正明氏（滋賀県琵琶湖環境科学研究所センター所長）による、エコライフについての講演もあります。次世代のために、地球温暖化のこと、資源のこと、生態系のことを考えながら、一緒にエコな暮らしや技術を体験しませんか？

◆ 日時 8月20日㈯ 10時～
なお、当日は公共交通機関をご利用ください。



◆ 場所 岡山大学創立五十周年記念館（北区津島中三丁目）
16時

廃油でキャンドル!

岡山大で
高校生ら
エコライフを体験



環境にやさしいライ
フスタイルなどを紹介
する「集まれ!市民の
エコライフ&テクノロ
ジー」が20日、北区津
島中の岡山大学創立五
十周年記念館で開かれ
た。岡山大学廃棄物マ
ネジメント研究センタ
ーが主催した。高校生
らが節電に関するパネ
ル展示などを熱心に見
入っていた。

会場では岡山大でリ
サイクル市などを開く
サークル「環境部EC
OLO」が廃油のキャ
ンドル作り体験やおか
らを使ったクッキー販
売などを行った。キャ
ンドルは使用済みの食
用油と油凝固剤を使
い、着色用のクレヨン、
キャンドルを作った

油のにおいを抑える香
料も加えていた。

岡山一高高一年、川本
雄大さん(15)は「やつ
ぱり油のにおいはする

ガラス瓶にキャンドルの原料を流し込む高校生

北区で

けど、油を捨てずに再
利用するのはいい」と
笑顔で話した。

イベントでは琵琶湖
環境科学センター所長の内藤正明さんに
よる「本当のエコライ
フとは何かを考える」
と題した講演などもあ
った。

【石井尚】

講演や展示から
環境問題を理解
岡山大で啓発催し
20日、岡山市北区津島
中の同大創立50周年記
念館で環境啓発イベン
ト「市民のエコライフ
&テクノロジー」を開
いた。市民ら約150
人が講演やパネル展示
を通じ、省エネや環境
問題に理解を深めた。
研究者ら7人が講
演。滋賀県琵琶湖環境
科学センターの内
藤正明所長は「米国か
ら穀物を大量に輸入し
ている日本は、穀物を
消費後にリサイクルし
ても最終的に残ったご
みがたまり、国内に環
境負荷が残る。本当に
意味での循環型社会に
はならない」と説明。
地産地消を進め、自然
と共生していく大切さ

を訴えた。
会場には自治体や環
境団体などが、用水路
を利用した小水力発電
の紹介パネルなどを表
示。廃食用油からキャ
ンドルを作る体験教室
もあり、子ども2人と
挑戦した同津島福居、
主婦吉本葉子さん(42)
は「少しの工夫で有利
用できると知った。子
や孫の世代に美しい環
境を残すために気をつ
けたい」と話していた。
(小谷草造)

【山で】中国フォーラム

震災踏まえ課題議論



「おのたまご」中国地方を考へる——大震災を踏まへ——
をテーマに新聞の有識者が話す会第22回「田園ウォー
ク」(圆トオーラ・世話人会主催)が13、14日、西口
市北区民元町のホリルドウガーデン西口で開かれた。

中国地方の有識者約40人が
参加したセミナー（ホーテル
グラントヴィア岡山）

高谷市長らと記念撮影するサバレス市長(手前左から2番目)ら(市役所)

岡山市長バーナー・シップ
連携協定を結ぶ米国ケアム
準州の視察団が13日、市役所
を訪れて高谷茂市長を表敬
訪問した。
訪問のは、テテド市のメ
リットサバーン市長(マジン)
マルティニア大使教団。
高谷市長は「西地域の交流
がさらに進展するため」引
き続き力添えをお願いした。
い。サンキューべりマッチ」と
あしり。環境施策について
懇談後、記念品を交換した。
終了後サバーン市長は「岡
山のバイオディーゼル燃料開
発、東部クリーンセンター
建設などに注目している。
今回の視察では岡山大廃棄物
マネジメント研究センター
が廃棄物問題を抱えるアジ
ア太平洋諸国に先進的な技
術や知識を提供する「官民パ
ートナーシッププロジェクト」
トの一環。

リイクル技術研究会

一・リサイクルプラザも見学
した。
同規範団は10日に来京し、
新潟市、鳥羽市内の環境問題
の先進的な取り組みを視察し
ており、帰国後、技術移転や
用可能な技術調査を行うとい
う。

ごみ処理視察団
市役所を訪問
インドネシアの4人
　　（インドネシア・パン



ドン市から、ごみ処理
システムの視察団が来
　　（山大が招いた。
工科大のモハメド・カ
エル教授ら4人。アジ
ア太平洋地域の廃棄物
問題を研究している岡
山大が招いた。

市役所では松田隆之
環境局長を表敬した

後、市役所南側の資源
化ごみの回収拠点や、

西南環境センター（南
区豊成）などを見学。

カエル教授は「パン
ドン市は人口増や焼却施
設不足でごみ処理が十
分にできていない。岡

山の分別方法を参考に
したい」と話していた。

6日まで滞在する。
（藤田勝久）

同し、1日、岡山市役
所を訪問した（写真）
視察団は、パンドン

市のアフメド・レコト
モ環境局長、パンドン